

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-1

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度 of 取組の方向性	令和3年度 of 状況	令和3年度 of 取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度 of 状況
稲毛海岸地区部会エリア			計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	地区部会のいきいきサロンについては概ね再開。住民交流の場となり社協活動の周知・普及にもつながっている。サロン参加者、従事者が顔見知りとなり買い物時も声をかける関係が出来ている。 また、顔見知りで集まるグランドゴルフはコロナ禍でも実施を続けている(好きな事に対しては集まりが良い) ふれあい食事サービスについて、食事を作るボランティアの方が年齢等のため多く辞めたことと、コロナの状況が落ち着かないことから自分たちで食事を作って会食形式での実施から施設利用型で配食での実施を検討。しかし価格や配食数等の交渉の結果、実施には至らなかった。	地域によってはサロンの再開を検討し電話で以前の参加者に参加打診をしたところ、コロナの感染がまだ落ち着かないため参加したくないとの意見が多くあり再開に至らなかった。 コロナの感染数拡大のため、サロンの会場に人数制限があり 会場を変更して外で開催する事もあった。	いきいきサロンや子育てサロンは再開中。 ふれあい食事サービスについては施設利用型で10月以降に再開を検討。「会食」が「配食」にするかは今後協議。
令和4年3月31日時点	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9				
【人口・世帯数】						
10,281人 4,382世帯						
【町内自治会数】	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1		4自治会で見守り活動実施中。 以前に、全戸配布した「あんしんカード」(稲毛海岸地区部会作成)が更新(3年毎)しながら使われており、緊急時の対応に役立つものとなっている。	コロナ禍のため人が集まる会議の開催が難しい面もあり見守りを実施していない自治会へ活動を伝える機会を作れなかった。連協にも協力してもらいもう少しうまく見守り活動のアナウンスをしていきたい。	見守り活動を未実施の自治会に対して見守り活動の事業説明や実際の活動状況話すことにより周知していくことを検討。 あんしんカード(稲毛海岸地区部会作成)の更新について連協・地区部会で協力して作業を実施していくための協議を検討。 行政で実施しているあんしんカードも活用。
15町内自治会						
【高齢化率】						
17.2%						
【地域の特徴】						
地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。						

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-2

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度を取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度を取組において困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況	
幸町2丁目地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 10,548人 6,027世帯(新港を除く) 【町内自治会数】 13町内自治会 【高齢化率】 33.9% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	交流の場となるいきいきサロンはコロナの影響により活動を中止。各サロンの従事者が集まり再開に向けた会議を実施。感染リスクを減少する方法として開催場所の変更(屋外での実施)やサロンの内容等新しい形態でのサロンの開催について話し合いを行った。	コロナ禍のため、交流の場となるサロンの再開については感染リスクについて慎重な意見も多く、活動再開が見送られた。	6月より一部のサロンを再開。	
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1	2年目となる「幸町2丁目地区 支え合いの会」の組織・活動等の存在が地区部会だより等の広報により地域住民に認知されるようになり、コロナ禍でも継続的に実施されてきた。特定の依頼者から何度も依頼がくることもあり、依頼件数は増加傾向にある。当該活動により地域ニーズの把握や見守り活動(安否確認)の機能も果たされており、これまで行ってきた幸町2丁目地区 支え合いの会(幸町2丁目地区部会)・UR幸町団地生活支援アドバイザー・あんしんケアセンター幸町・602地区民児協・28地区自治連協等との連携・協働での「安心カード」の活用と併用して充実させていくことができた。	2年目となる「幸町2丁目地区 支え合いの会」の組織・活動等の存在が地区部会だより等の広報により地域住民に認知されるようになり、コロナ禍でも継続的に実施されてきた。特定の依頼者から何度も依頼がくることもあり、依頼件数は増加傾向にある。当該活動により地域ニーズの把握や見守り活動(安否確認)の機能も果たされており、これまで行ってきた幸町2丁目地区 支え合いの会(幸町2丁目地区部会)・UR幸町団地生活支援アドバイザー・あんしんケアセンター幸町・602地区民児協・28地区自治連協等との連携・協働での「安心カード」の活用と併用して充実させていくことができた。	「安心カード」の新規普及は、コロナ禍でもあったことから大きな広がりはありませんでした。 「幸町2丁目地区 支え合いの会」に対する需要(ニーズ)が増える一方、活動者(協力者・サポーター)が減ってきており、担い手の新規発掘や活動者の養成が必要となっている。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	
	⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため認知症徘徊模擬訓練は中止とした。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため認知症徘徊模擬訓練は中止とした。	「認知症徘徊模擬訓練」は隔年実施となっており、令和2年度からはコロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり実施できておらずコロナ禍の収束後、速やかな再開が可能か危惧される。	高齢者施設内を会場として開催される「認知症カフェ」はコロナ禍では感染症対策のため活動を再開するにはハードルが高い。実施方法等を含めどのようにすれば、感染対策を取りながら開催できるか検討していくことになる。	6月よりいきいきサロンを再開。コロナ感染拡大防止に配慮したサロン内容に見直し、脳トレ・シニア体操等を取り入れることで、安否確認・地域住民同士の交流・認知症の予防等を行っている。
				「しょうじゅ美浜」のサ高住において、認知症の方だけに限定することなく地域住民の方たちが立ち寄れる交流の場として「認知症カフェ(サロン)」を開設していたが、令和2年度からコロナウイルス感染症拡大防止の観点から会場(施設内)に入ることができなくなり、開催することが出来なくなった。通常の「ふれあい いきいきサロン」についても、感染症拡大防止点やスタッフの不在等により、開催できず活動再開のための検討にとどまった。	幸町2丁目連携会議(12月と3月に対面で実施)において、幸町中央診療所が参加。あんしんケアセンター幸町・近隣医療機関等と連携しながら地域住民の健康増進・フレイル予防・ケア体制整備に向けて、関係機関との情報共有に努めた。	コロナ感染症拡大防止のため書面開催での実施にもなる会もあり、きめ細やかな意思疎通・情報共有にまでは至らなかった。	今年度は、9月に第1回目の幸町2丁目連携会議が「地域課題の共有と連携」をテーマに対面で実施された。

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
- 1 見守りの仕組みづくり
 - 3 障害者を支える仕組みづくり
 - 5 健康づくり
 - 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 - 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-3

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度取組において困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
幸町一丁目地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 7,140人 3,426世帯(新港を除く) 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 30.8% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビナートなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	ふれあいサロンなどは、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動場所が使用禁止になることがあったが、会場が使用できる状況になれば感染拡大防止対策を取りながら実施している。	新型コロナウイルス感染症拡大により、まだ住民やボランティアにも不安感が強い。また事業を進めるにしても、活動場所の利用制限がかかることもあるため、状況を見ながら進めていく必要がある。	・4月からいきいきサロン・アネモネ・手話の会を再開し、ふれあい食事会も5月から再開した。6月はバス旅行を実施した。 ・あんしんケアセンターとの顔の見える関係の構築に努めている。(広報誌小窓に記事掲載・社協各活動に職員が参加し顔見知りになる) ・閉じこもり・不安の解消に向けて、見守り電話の導入を検討している。また、コロナで閉じこもらないよう屋外活動各種と、屋内でのポッチャ競技を秋以降実施する予定。 ・法改正が予定されている成年後見制度にかかる勉強会を開催する予定。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1		ふれあい食事会については、新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止した(令和2年度はテイクアウト方式で一時実施)。		
	② 支え合い意識の醸成	8		平成30年度より「新たな担い手の発掘」と「住民にできるだけ外出の機会を提供」することを目的にボランティア講座を開催している。令和3年度は理学療法士による健康教室を1回開催した。		

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-4

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度を取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度を取組において困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
高洲・高浜地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 38,319人 19,684世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 32.1% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	コロナ禍においても、サロンの開催内容等を工夫し、交流の場となるいきいきサロンについては11サロン中8サロンを実施、散歩クラブについては活動場所が屋外であり感染リスクが低いと考えられることから2クラブ全ての実施となり、顔の見えるご近所づきあいの構築の一助を担った。	こどもカフェが休止中で世代間交流が出来なかった。市補助金の予算が削られ、コロナ禍で子供が学校から出られないこともあり再開は困難の状況となっている。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	これまで明生苑との勉強会を定期的に行い施設職員の方に認知症の事について話を伺ったりする交流があったが、コロナ禍により連携を保ちつつ勉強会の再開を検討するにとどまった。 また、令和3年度は認知症を含め様々な老後のリスクをゲーム感覚で学べるハッピーエンディングカード講座(終活)を当該地区部会と高洲コミュニティセンターの共催での準備を行ったが天候不良とコロナ感染拡大の影響により中止となった。	これまで明生苑との勉強会を定期的に行い施設職員の方に認知症の事について話を伺ったりする交流があったが、コロナ禍により連携を保ちつつ勉強会の再開を検討するにとどまった。 また、令和3年度は認知症を含め様々な老後のリスクをゲーム感覚で学べるハッピーエンディングカード講座(終活)を当該地区部会と高洲コミュニティセンターの共催での準備を行ったが天候不良とコロナ感染拡大の影響により中止となった。	コロナ感染拡大防止のため外部の方が施設内に入っていくことが困難な状況となっている。したがって外部(地域住民等)との交流や勉強会・会議等が開催できない状態になっている。	昨年度に企画し中止となっていたハッピーエンディングカード講座を実施。参加者の中で希望者には個々の老後のリスクについてまとめたものを書面にて郵送。老後のリスク管理を考える等終活の一助となっている。
	② ボランティア人材の育成	7	令和元年11月に介護相談室隣接のコンビニ(ケアローソン)がオープンし、地域の交流の場として活用できるよう各団体が連携して催事を企画し広報等を行っている。 ケアローソン内の地域交流スペースを見守り活動の中心的拠点として有効活用できるよう引き続き検討を行っている。	令和元年11月に介護相談室隣接のコンビニ(ケアローソン)がオープンし、地域の交流の場として活用できるよう各団体が連携して催事を企画し広報等を行っている。 ケアローソン内の地域交流スペースを見守り活動の中心的拠点として有効活用できるよう引き続き検討を行っている。	コロナ禍のため会議等の開催が困難な状況となっている。地域住民同士が会えないことから疎遠となり声が掛けにくくなるという負の循環に陥ってしまっている。 ケアローソンについて、まだまだ地域に周知されていない面もある。アクセスが多少悪くても行きたいと思わせる高齢者の要望に合わせた計画(イベント)等が必要かと思われる。	UR(生活支援アドバイザー)・社協美浜いきいきプラザと地域住民による年齢測定イベントを実施。 今年度は、地域福祉団体と連携、強化して勉強会やイベントを検討していきたいと考えている。
				コロナ禍のためボランティア講座等イベントが実施できなかったため、ボランティアの発掘・養成、担い手の必要性の周知が困難であった。	コロナ禍で地域住民が集まる機会を作ることが困難であったが、今後は地域住民・自治会向けの勉強会・ボランティア講座等を地域福祉団体とも連携して開催に向けて検討していきたいと考えている。 若い世代も参加出来るイベント等の実施により世代間の交流から担い手への養成へとつなげていきたい。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-5

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度を取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度を取組において困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
真砂地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 25,342人、12,625世帯 【町内自治会数】 32町内自治会 【高齢化率】 32.0% 【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホールの複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西泉税務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	・助け合い活動は継続的に実施していた。	・たすけあいの活動拠点を維持する経費が増えているが、個人情報が入ったファイル等の保管場所としても使用しているため拠点を維持する必要がある。 ・コロナの感染予防に係る経費(消毒関係の消耗品やマスク等の購入)もかさんでいるため経費を捻出する必要がある。 ・たすけあい活動のボランティアは、活動スタート当初と比較減っている。また若い世代のボランティアはいない(が良い策が見当たらない)。 ・真砂地区は詐欺被害がととも多いため対策が必要である。	・助け合い活動の利用者は亡くなったり、施設に入ったりで減少しているが、新規の依頼者が増えるので依頼数の変化はあまりない。 ・また、地区部会のチラシや口コミで依頼が入っている。 ・文化ホールで音楽と芸能のイベントを行い、人を集めた際に地区部会活動のPRをしたいと考えている。 ・ドコモのスマホ教室を一般向けに行う予定である。 ・警察から詐欺についての実情と対策の話をしてもらい、今年は重点化しようと思っている。 ・JFA夢フィールドで警察署と地域の方々が集まって詐欺被害に関するイベントの予備会議を行った。PR効果が高いことを行うようにしている。
	⑬ 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	10		・地区部会の広報誌や地域運営委員会のホームページで情報発信している。 ・自治会を通じてPR活動を行っていた。 ・ドコモのスマホ教室を試験的にボランティア役員向けに行った。		
	⑮ 地域と連携した支援の推進【新規】	2,9		・警察から詐欺についての実情と対策の話をもらった。		

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-6

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度 of 取組の方向性	令和3年度 of 状況	令和3年度 of 取組みにおいて困難だった点・今後の課題	令和4年度 of 状況
<p>幕張西地区部会エリア</p> <p>令和4年3月31日時点</p> <p>【人口・世帯数】</p> <p>11,896人、4,855世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>15町内自治会</p> <p>【高齢化率】</p> <p>20.7%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。</p>	<p>③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」</p>	1	<p>計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。</p>	<p>・幕張西地区部会エリア内において15自治会のうち、13自治会が見守り活動を実施した。 ・年1回の見守りCo定例会を開催し、各町内自治会の情報共有を図った。 ・見守り活動から発展した支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきており、支え合い活動の立ち上げについても、今後社協・あんしんケアセンター・生活支援コーディネーター等と連携を図りながら進めていく予定である。</p> <p>・幕張西に新たに開業したイオンタウン内のウエルシアのカフェスペースにサロンができた。買い物のついで等で立ち寄る場所に開設ができた。</p> <p>・ガイドラインを遵守し感染対策を取った体操の実施や新しいサロンの形態について検討し実施した。</p> <p>・地区部会主催で1回のボランティア講座を開催し、地区部会活動や地域のボランティア活動についての理解を深めた。現状の地区部会役員・活動者(スタッフ)に対し、社会福祉協議会主催の研修会の参加案内を行いモチベーションの維持を図った。</p>	<p>・見守り活動の未実施自治会への働きかけを引き続き行っていく必要がある。 ・見守り活動がスタートした自治会やコーディネーター・協力員等の支援として、情報交換の機会を充実させる必要がある。 ・コロナ禍で外出を控え地域行事には出てこれなくなってしまう方には、お誘いの声掛けをする必要がある。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、徐々に活動を再開していきたい。 ・感染症対策や実施方法の変更を講じながら7月末に第30地区連の夏祭りを3年ぶりに開催しとても好評だった。 ・ただし今年も敬老会の開催は難しいのでお祝い品を届ける形になる。 ・3密を避けた行事として映画会を実施した。</p>
	<p>⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり</p>	2,3,4,9				
	<p>⑩ ボランティア人材の育成</p>	7				

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

- 【取組みテーマ】
 1 見守りの仕組みづくり
 3 障害者を支える仕組みづくり
 5 健康づくり
 7 担い手の拡大とボランティアの促進
 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支える仕組みづくり
 6 防犯・防災に対する取組み
 8 福祉教育・啓発
 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-7

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度取組において困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況
磯辺地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 18,994人、8,302世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ち並び、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7,9	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	・28自治会中10自治会が支え合い活動を実施。コロナ禍でもゴミ出しや買い物代行、草取りを実施している。 ・見守り活動は5自治会で実施し、地区部会から5千円ずつ支援している。検討中で未実施の自治会に対してはパンフレットを渡すなどして、実施に向けて啓発を行った。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、支え合い活動未実施の町内自治会に直接説明に伺うことが出来なかった。 ・あんしんケアセンターの協力を得ながら体力測定会も実施しフレイル予防につなげたいが、たくさんの人が集まると密になるため見送った。	・磯辺地区全体を対象とした運動会やソフトボール大会をコロナ感染対策を講じて実施する予定。 ・盆踊りは中止した。
	⑫ 健康づくりイベント等への参加促進	5		・スポーツ振興会が主催する磯辺地区全体を対象とした運動会は新型コロナウイルス感染症の影響で中止した。 ・地域ルームや町内自治会集会所においてコロナウイルス感染拡大状況を鑑みながら百歳体操を実施している。	・高齢者実態調査から支え合い活動のニーズ把握が出来ると考えている。	
	⑪ 支え合い意識の醸成	8	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	・新型コロナウイルス感染症の影響で、人が集まるのが難しく、支え合い意識を醸成する機会をもつことが難しかった。	・コロナの収束の兆しが見え、地域ルームの飲食が可能となれば、出入り自由な居場所の設置を考えている。	
					・5月より地域ルームで100歳体操が再開された。	

美浜区支え合いのまち推進計画に準じた取組状況(令和3年度)個票

【取組みテーマ】

- 1 見守りの仕組みづくり
- 3 障害者を支える仕組みづくり
- 5 健康づくり
- 7 担い手の拡大とボランティアの促進
- 9 地域のつながりづくり

- 2 高齢者を支える仕組みづくり
- 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり
- 6 防犯・防災に対する取組み
- 8 福祉教育・啓発
- 10 相談支援体制と情報提供の充実

資料 2-8

地区部会エリア	令和2年度までの重点取組項目	取組みテーマ	令和3年度を取組の方向性	令和3年度の状況	令和3年度を取組みに際して困難だった点・今後の課題	令和4年度の状況	
打瀬地区部会エリア 令和4年3月31日時点 【人口・世帯数】 24,936人、9,220世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 10.8% 【地域の特徴】 東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ペイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ペイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。	・民児協では、高齢者実態調査の中止を余儀なくされ、安心カードの普及までには至らず、住民への周知までに留まった。 ・子育てサロンは、緊急事態宣言期間以外、人数制限しながらも実施した。 ・育成委員会として夜間パトロールは実施した。 ・街区ごとでの見守り活動の必要性について住民への啓発活動としての周知拡大までには至らなかった。 ・31の団体で自治会連合会のリモート会議を実施し、市、県、県警等の情報共有をおこなっている他、防災防犯交通の各分野の専門領域にて、必要な情報の共有を図っている。	・緊急通報システムについては、抵抗感が強い利用者が増えない。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、住民が集う盆踊りやもちつきが中止になった。 ・地域福祉計画を進めるにあたり、区連協で計画が主要テーマとなっていない。 ・防災委員会や各街区の管理組合で情報を集めているものの、個人情報、かつ、開示に本人同意が必要なため、横の連携は困難な状態。 ・千葉県供給公社は、支えあいの街の推進や地域コミュニティへの参画に対して、組織として関心が薄く、対応に苦慮している。	・民生委員による高齢者実態調査が実施され、安心カードの登録者は増えている。 ・民生委員を騙った詐欺が増えているため、65歳以上の方全員に注意喚起の書面を配布する。 ・住民の交流の場として朝市を2カ月に1度開催している。 ・不登校児の居場所づくりがボランティア組織で始まっている。 ・住民の移動支援の取組としてグリーンスローモビリティの実証実験が秋以降に実施される。 ・街区の見守り活動を進めることを検討している。 ・3年連続で例年行われていた行事は中止となっている。	
		⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり					2,3,4,9
	⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2					・打瀬地区部会が認知症の家族会「そよ風」を新型コロナウイルス感染症の対策に留意しながら5回実施した。 ・また、シルバーウッド社が手掛ける「バーチャルリアリティー」技術を用いた「VR認知症体験会」を開催し、認知症を正しく理解することと、認知症に関する意見交換を行った。 ・さらに東都大学に協力を仰ぎ、第1回「健康フェスティバル」を開催した。